

A PLACE OF  
REMEMBRANCE

追悼の場を憶う

---

190781151

劔 日向

# 7章

## ADJACENCIES

隣接：メモリアルの作成過程

# 1. 9.11式典

- a) 9.11後、国中、世界中の人々が犠牲者を追悼
  - 感謝や賛辞、哀悼など様々な意味を包括、厳粛で敬虔な祈祷
- b) 9.11から一周年、ニューヨーク市で式典が開催
  - ア)犠牲者の家族の話
    - 「犠牲者＝統計×、個人＝○」
  - イ)長さ500mになる犠牲者の名前を刻印、「追悼の壁」
  - ウ)ジュリアーニ市長の演説
    - 「9.11で私たちは誰よりも多くの損失」

## 2. 犠牲者の名前の配置の検討

### a) 9.11追悼博物館のメモリアル

ア) 人々は、名前の多さに圧倒、親族の名前の前で懐旧

→ 遺族の40%が遺骨×、この場所が唯一の埋葬地

### b) メモリアル作成の中心人物

→ 建築家マイケル・アラッド



## c)犠牲者の名前の配列議論

### ア)※第一救助者の犠牲者と民間人の犠牲者の区別

第一救助者遺族の意見： 他人のために命を犠牲

→その勇気を特別に評価

民間人遺族の意見： 民間人の多数も英雄的な行動

→第一救助者を別に認識→その犠牲を否定

結果：LMDCは「全ての人の犠牲と貢献は平等」と決議

→第一救助者と民間人は同一の評価

※第一救助者(first responder)

テロの際に一番に救助に出動(警察隊や消防隊など)

## イ) 近親者の名前の配列

I. 名前の配列について、LMDCには何百通もの手紙が殺到

内容: 犠牲者夫婦や親子などの、名前の配列の隣接要望

II. アラッド氏と追悼博物館スタッフは、全犠牲者の近親者に資料と解答用紙を送付

→ 犠牲者の情報開示と、犠牲者の名前の横に特定の名前の隣接要望

III. ニューヨーク市検死官事務所、ペンタゴンや93便の記念館の計画者、犠牲者の家族達、救命機関や企業などと緊密に連携

→ 名前の配置やリストのための、情報収集

結果：1,200件を超える要望が提出、その要望から、メモリアルに特定の名前を隣接

#### d) 最終的な妥協案

ア) 地理的、家族的、同僚的關係、そして犠牲者の要望から配置→その配置は特別な意味を包括

イ) 計画は2006年12月に9.11記念館の理事会で採択

テロ時の犠牲者の最後の場所から9つのグループに分割

北側のプール：北側タワーの労働者や訪問者

北側タワーに墜落、11便の搭乗者

1993年の爆破事件の犠牲者

南側のプール：南側のタワーの労働者や訪問者

南側のタワーに墜落、175便の乗客

ペンタゴンの犠牲者

77便の犠牲者

世界貿易センタービルの周辺の犠牲者

第一救助者

ウ) 企業や所属機関、部隊などに細分化

エ) 配偶者、婚約者、兄弟、同僚、親友など、生前の近親者の名前を、死後も一緒に追悼碑に刻印



オ)アラド氏とそのスタッフによる手作業で2983人名前を刻印

→多くの人々の絆を反映

→このようなメモリアルは、唯一無二



### 3. 犠牲者のエピソード

a)メモリアルの名前の背景には何千もの物語が存在

b)ハワード・ラトニックさんの話

ア)会社は世界貿易センタービルの上階

→当日は友人も、従業員も、弟も、みんなビルで勤務

イ)ウォール街の金融サービス会社

→朝の8時46分の1時間前から始業、9月11日は出勤日

ウ)旅客機がビルに墜落

→ジェットエンジンのような音と、ビルの崩壊音

→ビルが後ろから崩壊し接近、死を覚悟

エ)テロ直後

→ビルの従業員は全員死亡と直観

オ)会社の方針

キャンター・フィッツジェラルド社は近親者を雇うことを奨励

→その結果、9.11で最も多数の親族が死亡

c)これらの話は、メモリアルデザインにも反映



## 4. メモリアルデザイン

a) メモリアルの物理的な構造をデザイン

→ メモリアルのデザイナーと建築家のチームにとって困難な課題

b) 何カ月もかけて、AからZまでの選択肢を作成

→ 最終的なデザインを決定

→ 来館者と名前、そして水との間に、直接、自然で、感触のよい関係を構築

c) 最終的なデザイン

→ 腰の高さまで名前を配置、傾斜のあるデザインで完成

→ 多数の人の要望がデザインに反映

d) 参拝者は叩頭し祈祷、自然と敬虔な気持ちに



# 8章

**BUILDING BACK**

**再建：惨劇を記憶に**

# 1. 大型プロジェクト

a) 9・11、5周年目前

ア) 追悼博物館の建設工事が開始

→ 転換点となる大事なプロジェクト

イ) 2つの課題

I. 6つ以上の大型プロジェクトが重複

→ 5つの超高層ビル、巨大な地下駅、舞台芸術センター、ショッピング施設、車両審査センター、2つの市道、歩行者専用道路、さらにメモリアルと博物館の建設が同時進行

→ これらのスケジュール管理が課題

## Ⅱ.工事の敷地内を鉄道が通行

→パス・トレインと、ニューヨーク市営地下鉄のブロードウェイが通行

→毎日15万人以上の乗客が利用、運休×

ウ)「ドミノ」のような建設プロジェクト

→1つのプロジェクトの建設スケジュールが他のプロジェクトに影響





## 2. 追悼博物館の建設

### a) メモリアル広場

#### ア) 広場の下での地下複合施設

→ 3万平方メートルの地下複合施設に博物館の展示スペース、搬入口、通路、交通機関のコンコース、線路、冷却装置などを設置

→ 21メートルの巨大な屋根(広場の地面)が必要

#### イ) 広場の建設

→ 何百本もの樹木(416本)と北米最大の人工滝を建設

## b) ワールド・トレード・センタービルの跡地の開発

### ア) ワールド・トレード・センタービルの残骸は展示物として保存

→ 事故当時のスリラーウォールの一部やタワーの柱跡(ラストコラム)など

### イ) 事故現場へのスロープの撤去

→ 遺族の心の拠所、犠牲者の追悼の場の消失

### ウ) 北館の跡地

→ 9.11や1993年の爆破事件の歴史展示(事故の遺物など)

### エ) 南館の跡地

→ 犠牲者の人生の追悼記念展示

## c) 9.11の遺物

### ア) ラスト・コラム

→ ワールド・トレード・センターの柱、追悼や復興のメッセージが残存

### イ) トライデント

→ 高さ15メートル、重さ50トンのフォーク状のオブジェ(事故以前は北側タワー正面に設置)



## d)メモリアルの建設

### ア)メモリアルの滝

→2度の試作と、多くのテストにより、完璧

→アラッドが理想とした静寂と瞑想的な空間の形成

### イ)ブロンズパネルの製作

→犠牲者の名前は職人の手作業で彫刻

→夏はパネルの温度上昇の防止、冬は雪や氷対策に冷暖房システムが設計

# 3. 追悼博物館の開設

## a) 追悼博物館開設の必要性

ア) 人々はテロ事件から10周年と同時に追悼博物館開設を希望

→グラウンド・ゼロという空洞の消失を切望

## イ) 開設資金の支援

→公的資金や個人からの寄付を追悼博物館の理事会とスタッフが集積

→継続的にLMDCやニューヨーク州そして世界中の人々からの支援により確保

## b) ワールド・トレード・センター駅

ア) プラザの北東のグリニッジ・ストリートとフルトンストリートの交差点に建設

イ) 何十枚もの翼の奇抜なデザイン

→ 複雑な構造のため、最終的な開業は2016年



## 4. 復興の象徴

### a) 最初のデザイン計画書

ア) 追悼博物館の敷地はニューヨークの街の生きた一部と想定

イ) 追悼博物館は追悼の場と同時に常に変化する都市の観察の場

→ワールド・トレード・センタービルやワールド・トレード・センター駅が間近に存在

### b) 追悼博物館の存在

追悼博物館建設にあたり、長年にわたる対立、意見の相違、そして悲劇からの様々な苦悩を克服

→復興の象徴